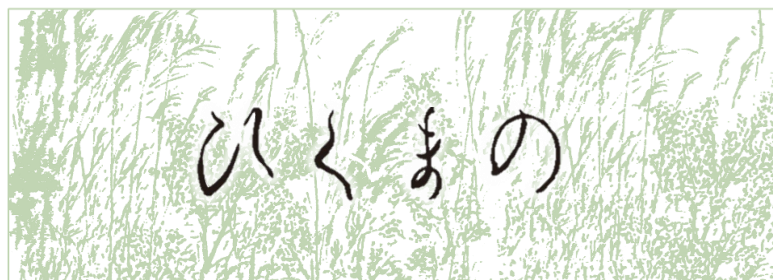




ひくまの：浜松医科大学附属図書館報. No. 76

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 浜松医科大学附属図書館 公開日: 2026-03-31 キーワード: 作成者: 浜松医科大学附属図書館 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10271/0002000725">http://hdl.handle.net/10271/0002000725</a>



Hamamatsu University School of Medicine Library Bulletin "Hikumano" No.76 Mar, 2026

# 購読からオープンアクセスへ ~Transition from Subscription to Open Access~

附属図書館では2026年1月より、**電子ジャーナルの購読**に加え、一定本数の**オープンアクセス出版費用**を含んだ新たな契約を出版社数社と締結しました！このような契約手法が生まれた背景等をご紹介します。

## 電子ジャーナルの課題

従来、世界中の大学や研究機関は、学術雑誌を購読することで論文へアクセスしてきましたが、電子ジャーナルの発展に伴い、いくつかの課題が生まれました。

### 課題1 購読料の上昇

購読料が上昇し、各機関の負担が増加。  
2025年は平均約5%上昇したとの報告も。

→[Learning from the Past | Periodicals Price Survey 2025 | Library Journal](#)



### 課題2 オープンアクセス (OA) の促進

研究成果をインターネット上で誰もが無料で読めるよう、公開する取り組みが進んでいます。(→[ひくまの No.74](#))

しかし、OA出版には高額な費用が必要となる場合もあり、研究者が論文をOA化することが難しいことがあります。

### 課題3 購読料とOA出版料の二重払い

OAの促進に伴い、同じ雑誌に、

- ①購読しないと読めない論文
- ②オープンアクセスの論文

がある場合、一つの雑誌に対して購読料とオープンアクセス出版料を二重で支払うことになるケースが出てきました。



そのような中、約10年前の2015年4月、マックス・プランク・デジタルライブラリーというドイツの機関が、ある試算結果を公表しました。

全世界が支払っている購読料をオープンアクセス出版料に  
**転換**すれば、主要出版社が提供する論文すべてを  
オープンアクセスにできる！



MPDL

Schimmer, Ralf et al. "Disrupting the subscription journals' business model for the necessary large-scale transformation to open access". MPG.PuRe. 2015. <http://dx.doi.org/10.17617/1.3> (最終閲覧日: 2026.3.10)

この考え方は各国の研究機関やコンソーシアムに大きな影響を与え、**購読からオープンアクセスへの転換の機運**が広まりました。

## 転換契約とは？

購読からオープンアクセス（OA）への移行を進める中で生まれた仕組みの一つが「**転換契約**」です。本学では今回、その一種である「**Read & Publish契約**」を締結しました。

Read & Publish契約は、購読と一定数のOA出版をまとめて契約する契約方式です。購読料とOA出版料を別々に支払う場合と比べ、費用を抑えることが可能です。




日本では、転換契約を含む電子ジャーナルの契約条件について、大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）が中心的な役割を担ってきました。


一方で、2024年以降は、政府の支援のもと発足したOASEおよびその後継組織であるOASE+が、オープンアクセス推進に向けて新たな集団交渉を進めています。2025年に行われた交渉では、Springer、Wiley、Taylor & Francisと転換契約提案に合意しました。

参考（OASE+ ホームページ）：<https://oase.jp/>

また、国内では、大学や研究機関が協力して出版社と交渉を進めつつ、最終的な契約は各機関が個別に締結する方式が一般的です。一方で海外では、複数の大学がまとめて包括契約を結ぶケースもみられ、地域によって進め方はさまざまです。

複数機関での契約例：

 DEAL Konsortium（旧Projekt DEAL）（ドイツ）  
1,000以上の研究機関が結集し、大手出版社と全国規模の転換契約を共同で締結。

 CAUL（オーストラリア・ニュージーランド）  
2国の大学図書館による地域コンソーシアム。  
近年は転換契約の締結を主導しており、幅広い出版社と契約を行っている。

## そのほかの解決策

電子ジャーナルの購読とオープンアクセスにおける課題については、転換契約以外の解決方法も模索されています。

### ◆ 機関リポジトリの強化

機関リポジトリは、大学などの研究機関が自分たちの研究成果をまとめて公開するための仕組みです。ここに論文を登録しておくことで、出版社の料金に左右されず、誰もが研究成果にアクセスできるようになります。さらに近年は、リポジトリに公開された論文を基に査読や出版を行う「オーバーレイジャーナル」という新しい出版の仕組みも登場し、注目されています。

\* オーバーレイジャーナル...リポジトリに公開された論文を基盤に査読・編集・出版を行う仕組み。論文本文はリポジトリに保存されるため、ジャーナルは査読と出版に特化でき、低コストで運営ができます。

### ◆ ダイヤモンドオープンアクセス

著者や読者が費用を負担することなく研究成果を公開するモデルで、研究機関や助成機関などの支援によって運営されます。南米を中心に発展し、近年はヨーロッパや韓国でも整備が進んでいます。

### ◆ 権利保持戦略（Rights Retention Strategy）

通常の出版契約では著作権を出版社に譲渡することが一般的ですが、助成機関や所属機関のポリシーに従い、譲渡前にCC BY（→[ひくまの No.75](#)にて解説）などの公開ライセンスを付与することで、出版社の契約に左右されず早期公開（セルフアーカイブ）を可能にする仕組みです。こうした権利保持の方針は、ハーバード大学やエディンバラ大学、ケンブリッジ大学、オックスフォード大学などで採用されています。

# 館長挨拶

前田 達哉

浜松医科大学 総合人間科学講座（生物学） 教授

図書館と聞いて、今の学生の皆さんはどのようなイメージを抱くのでしょうか。還暦過ぎの私にとっては、図書館という言葉には歴史・伝統・蓄積といった静的な印象がまとわりついています。図書館で過ごす時間がいちばん長かった院生時代にも、その目的は最新の学術雑誌から得られる情報のためであることは今と変わらないのですが、ハードカバーに製本し直されたそれら雑誌が薄暗くカビ臭い書架に整然と並ぶさまに、最新と見えた知識も次々と歴史の中に飲み込まれて、ほとんどは顧みられることもないというビジョンを見て居心地の悪い思いをしたものです。

翻って当館ははるかに現在と未来を志向しています。スマート・ライブラリ構想のもと、従来からの図書・雑誌に加えてデータベースなどが整備されているばかりでなく、本学の良き伝統であるグループ学修に活用できるコラボレーションエリアや、集中的な学修のためのクワイエットエリア、電子資料の閲覧や検索のためのICT環境を提供するインフォメーションハブなど、多様な学修環境が提供されています。さらに、この環境が24時間、快適かつ安全に利用できることは当館の大きな特長です。また、本学の研究者のために、購読・出版件数の多い大手出版社等数社とのRead & Publish契約を新たに結びました。これにより、購読誌の数が増え、OA出版費用も抑えることができるため、とくに次世代を担う若手研究者の発信力の後押しになることを期待しています。

当館に課せられた使命は、これら学修・研究のための目的指向型の環境整備ばかりではありません。大学附属図書館のもう一つの大事な役割は、本との豊かな出会いの場を提供することでしょう。『なぜ働いていると本が読めなくなるのか』（三宅香帆著）という本をご存知でしょうか。読書習慣のある（あった）人に”刺さる”書名であったようで、30万部を超えるベストセラーになりました。『なぜ』はそこでは、現代の労働が効率性や生産性を重視しすぎるあまり、仕事に役立たない情報を取り込むことを許容できなくなってしまっている、そういう価値観を内面化してしまっているためであると論じられています。当館においても、学生の皆さんの貸出冊数は長い間にわたって緩やかに下がり続けている背景には、同様な事情があるように思われます。しかしながら、大量のデータ処理やパターン認識において人間を凌駕するAIが、医療においても診断や治療方針の策定に介在してくるのも遠いことではないでしょう。そういう時代にあってなお人間が担うべき、共感（エンパシー）や倫理的判断、経験に基づいた直感や洞察力などは、遠回りに見えても若い頃の読書によって養われるものであると、もはや本が読めなくなりつつあるかつての本好き青年は思うのですが、いかがでしょうか。

当館が本学における「知の拠点」としてますます機能し続けられるよう、皆さまの一層のご活用とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 論文投稿料（APC）免除の拡大

電子ジャーナルの購読と一定数のオープンアクセス出版料を含む一括契約を複数出版社と締結しました。対象の出版社は以下の通りです。

- Elsevier
- Wiley
- Taylor & Francis
- Company of Biologists
- John Benjamins

詳細は[論文掲載料（APC）の免除・割引情報 | 国立大学法人 浜松医科大学](#)（学内限定ページ）をご確認ください。

\* 本契約以外で割引等が受けられる出版社の情報についても掲載しています。

\* こちらのページに掲載のない出版社については、論文投稿料（APC）免除・割引に関する契約はありません。



## Elsevier社の契約外の論文が無料で読めるようになりました！

Elsevier社の契約していないジャーナルについて、ScienceDirectでアカウント登録を行い、図書館へ登録したアカウントを申請いただくことで、無料で希望する論文PDFを入手できます。

期限は9月末までです。ただし、先着順で利用枠が無くなり次第終了となります。

マニュアル等は[ホーム > 図書館を利用する > 利用案内・申込み > 利用申請書（学内者限定）](#)からご確認ください。

① ScienceDirect



② 申請書



## 令和8年度 浜松医科大学附属図書館開館予定表

\* 開館時間が変更となる場合がありますので、最新情報は図書館HPでご確認ください

4月

			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

5月

					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

6月

	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

7月

			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

8月

						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

9月

		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

10月

				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

11月

1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

12月

		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

1月

					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

2月

	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28						

3月

	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

□: 平日 9:00-20:00 □: 土・日曜日 10:00-17:00 □: 学期休業期間 9:00-17:00 □: 休館日